

石井鐵工所

<https://www.ishii-iiw.co.jp/>

サステナブルなタンクメーカーへ構造改革

石井鐵工所は、創業125年の歴史を誇るタンク・プラントメーカーで、国内タンク3社の一角をなす。「鉄構の力でサステナブルな世界を実現する」を企業パーパスに掲げ、石油・化学・電力・ガスなどの基幹産業に不可欠な貯蔵インフラを世界中に提供している。

125年の歴史のなかで、時代に求められるエネルギーのプラントやタンクを提供してきた。都市ガス製造プラントの国産化に初めて成功したのを皮切りに、電解槽製造やコンクリート／鉄のハイブリッドタンク、ガス溶接水素タンクなど数多くの国内初を実現してきた。アンモニアタンクの施工実績は国内トップで、2022年には国内最大のタンクを納入したばかりだ。

近年では2050年のカーボンニュートラル(CN)実現に向け、次世代燃料や二酸化炭素(CO₂)貯留などに対応する新たなタンクの需要が生まれている。これを受けて同社は構造改革に着手。従来のメンテナンスや改造を主体とする事業体制を刷新したほか、2024年末には株式の上場を廃止して経営の自由度を高めた。技術開発や人材への投資を積極化させることで、次の100年も続くサステナブルなタンクメーカーとなるための基盤を固めていく。

足下では大型CN案件の進捗は当初見込みよりは遅いものの、一方で、工場でのエネルギー転換需要は旺盛だ。新たな事業体制のもとで燃料転換用途として液化天然ガス(LNG)タンクの受注を拡大させており、海外ではCN関連で有償の事業化調査(FS)や基本設計(FEED)の引き合いを多数得ており、東南アジアに築いた強固な協力体制を活用して、積極的に対応していく。

エネルギー転換期においては、ユーザーは既存インフラの維持とCNの推進に並行して取り組むことが求められる。当社としてもそれを支援すべく取り組んでいるが、人材確保という課題が立ちはだかっている。これに対し同社では、自動化・省力化に関する技術開発に力を注いでいる。羽田事業所(東京都大田区)では、これまで作業員の技能と経験に頼らざるをえなかった難易度の高い溶接や検査を自動化するなどデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進している。

業務提携も積極化させており、JFEエンジニアリングとCN案件で協業し、営業力の強化を図っている。また鉄工工事や検査工事、塗装工事などの協力会社で構成される「石井鐵工所安全衛生協力会」の会員増強にも努め、施工体制の強化も図っていく。協力会社においても同じ人材確保や技能伝承に課題を抱えていることから、タンクに関する知見を活用したスキルアップ支援は魅力になると考えている。

将来を担う人材育成も強化している。新入社員研修では溶接や設計などの基礎技術に文理を問わず触れる機会を設けたほか、キャリア形成マップ作りにも着手した。また大学への出張授業や溶接実習の受入を積極的に行っており、本社所在地の東京都中央区が主催する産業文化展にも出展して知名度向上にも努めている。今後は、多方面からの人材確保を積極的に進め、タンクメーカーとしての知見を活かした人材開発システムとコンテンツを活用し、持続的な人づくりへとつなげていく。



24年3月に完工したレゾナック・ガスプロダクツ川崎工場向けの液化炭酸ガス球形タンク2基。原料炭酸ガスを精製し圧縮液化したものを貯槽する



石井鐵工所が23年に化学大手に納入した国内最大規模のアンモニア貯蔵タンク